

# 令和4年度 第3回函館市健康増進計画策定推進委員会

## 会議概要

- **開催日時** 令和5年3月28日（火）17時30分～18時
- **開催場所** 函館市総合保健センター2階健康教育室
- **会議内容**  
議題  
議題1 函館市健康増進計画（第3次）の骨子（案）について
- **資料**
  - ・会議次第
  - ・資料1：函館市健康増進計画（第3次）の骨子（案）
- **出席委員（13人）**（委員長，副委員長以外は五十音順）  
小葉松洋子委員長，澤辺桃子副委員長，  
市居秀敏委員，内山崇委員，小川靖行委員（代理出席者 松崎繁雄），  
小倉清春委員，鏡典子委員，木幡恵子委員，佐藤豊委員，澤口則子委員，  
鈴木均史委員，浜克己委員，柳澤佳知委員
- **欠席委員（2人）**  
池田公貴委員，小野田府委員，濱田ルミ子委員，山崎雄二委員
- **アドバイザー**（北海道公立大学法人札幌医科大学医学部公衆衛生学講座）  
大西浩文教授，小山雅之講師
- **オブザーバー**（全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部）  
服部慎一氏，遠島綾子氏
- **報道機関**（五十音順） 無し
- **傍聴者** 無し
- **事務局**  
（保健福祉部健康増進課）  
三上敦誉課長，高杉雄亮主査，二木直美主査，

有賀友香主任技師，笠原未帆主任主事

## ■ 会議要旨

### 1. 開 会

---

#### 小葉松委員長

ただいまから，令和4年度第3回函館市健康増進計画策定推進委員会を開催いたします。

本日は，委員総数17名中，13名の委員にご出席をいただいております。函館市健康増進計画策定推進委員会設置要綱第5条第3項の規定により，委員会が成立しておりますことをご報告いたします。

また，これまでの委員会に引き続きまして，函館市と連携協定書を締結しております札幌医科大学から本委員会のアドバイザーとして，同大学医学部公衆衛生学講座の大西浩文教授，小山雅之講師にご出席いただいております。同じく，函館市と連携協定書を締結しております全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部から，本委員会のオブザーバーとして，服部様，遠島様にリモートでご出席いただいております。

### 2. 議 題

---

#### 小葉松委員長

それでは，議題1「函館市健康増進計画（第3次）の骨子（案）について」，事務局より説明願います。

#### 「函館市健康増進計画（第3次）の骨子（案）について」

##### （事務局）高杉主査

－資料1の説明－

#### 小葉松委員長

ただいま事務局に説明していただいた内容に関して，委員の皆さんからご意見・ご質問はありますか。

#### 小山アドバイザー

少し細かい点になりますが，5ページ目の計画書の構成で，中間評価5か年（令和10年）で中間評価とありますが，終わった次の年（令和11年）に評価するということでしょうか？

**(事務局) 三上課長**

令和10年度までで終わり、令和11年にそれまでの5年間について評価するという意味です。

**小山アドバイザー**

令和10年度の3月に報告書のようなものを作成するのでしょうか？

**(事務局) 三上課長**

まず5か年しっかり実施した後に評価と考えています。

**小山アドバイザー**

わかりました。

**小葉松委員長**

他の委員の方からご質問・ご意見はありますか？

**浜委員**

今と同じ5ページですが、第2章の健康はこだでの最終評価ということで、目標値や最終値の違いというのはどのように見たらいいか、教えてください。

**(事務局) 三上課長**

目標値と最終値の違いですが、目標値は現行の第2次計画を立てたときに直近の現状や国の施策を参考にしながら立てた目標値で、最終値は計画終了時点の数値です。

**浜委員**

目標値と最終値を近づけるようにしていくのでしょうか。

**(事務局) 三上課長**

例えば、問題あったもの、差があって悪かったもの、継続して取り組まなければならないこと、そのほかにご提言あったものについては重点取組として取り組んでいきます。浜委員からお話があった数値との解離があるものについても、十分に勘案しながら計画に盛り込んでいきたいと考えております。

**小葉松委員長**

他に委員の皆様から無いですか。

私からは、4ページで大きな項目になっている「社会環境の質の向上」の取り組みに関連する意見です。

一番基本的な運動は徒歩だと思いますが、運動しましょうと伝えても、皆さんが住んでいる環境がそれぞれ違いますので、歩いて快適・歩きたくなるまちかどうかは活動量に関係しています。今のまちづくりはどうしても、車をどうやってスムーズに動かすかという発想で作られているので、歩きにくいです。函館市内だと、産業道路は歩いて楽しいかという、あまり歩きたくなりません。車しか移動手段がないところに住んでしまうと、いくら掛け声をかけてもなかなか歩くことにつながらない。50年後・100年後を考えると「住んでいる人たちが、体を動かすことが楽しくなることを考えたまちづくり」というものを、まちづくりの段階で考えてもいいのではないのでしょうか。

実際に私のクリニックの患者さんに歩くよう言っているのですが、不便なところに住んでいる人は歩きようがないので、公共交通を失くすことも健康に良くないのではないのでしょうか。公共交通については採算性のみを考えるのではなく、健康にも関連する大きな因子ではないかと思います。

### **(事務局) 三上課長**

函館は土地柄、札幌や都心と違って公共交通機関が弱い部分があるので、どうしても生活するうえで車の移動に頼らざるを得ないところがあります。街並みや景観というところでは、函館山方面では街並みの再生を行い、「異国情緒溢れる街並み」をアピールしています。Hakobitにはウォーキングコースとして西部地区、湯の川地区や五稜郭地区などを全27コースに入れ込み、地域学の視点も持ち、歩いて楽しめるよう工夫しています。委員長がおっしゃっていたハード整備面については、健康を進めていくまちづくりという視点も持ちながら、街並み整備という市の課題も含めて意見を共有していきます。

### **小葉松委員長**

歩いて魅力的なまちというのが、どうしても観光客目線になってしまいます。人口で見ると、西部地区は過疎化が進んでいます。多くの人が暮らしている場所が、もっと健康を維持するのに住みやすい場所になるようにこれから考えていかなければ、というメッセージを入れていただきたいです。

他に、皆様方からありますか。

### **小倉委員**

函館市民の健康の状況について市民と共有化したうえで、自主的な取組を促すようなことを盛り込んでいただきたいと思います。色々なアイデアや行動が出てきて、市として取り組むきっかけになるようなことも出てくるのではないかと思います。先日開催された野球のWBCでは、共通の目標に向かって構成員の皆さんが自主的に取り組まれたと報道されていました。やはり共有化して、自主的に色んな取組をする機運を作っていくというのが、健康づくりにおいても効果があるのではないかと思いますので、そのような視点も盛り込んでいただきたいと思います。

### **(事務局) 三上課長**

市民が自主的に意見を出し、それを行政に反映し検討・議論していくことは、行政としては当然やっていくべきことと思っております。市民の方々が健康に興味を示すことが意見の聴衆につながると考えておりますので、はこだて市民健幸大学では参加しやすく楽しめるようなイベントづくりをしております。また、Hakobitは目標を持って歩くことを続けて、健康に興味を示してもらいたいがあります。そのような取り組みを通じて、市民の皆様からのアンケートや、意見を聴取できる場を設けた中で、ご意見を検討し、可能なものは事業化するなど考えていきます。

### **小葉松委員長**

他にご意見・ご質問ある方いらっしゃいませんか。

それでは、事務局から説明の内容を函館市健康増進計画の骨子といたします。皆さんよろしいですね。議題については以上でございます。

全体を通して、ご意見・ご質問ないですか。

### **大西アドバイザー**

先ほどお話がありましたが、基本理念に向かって、市民が様々な立場で、自分が何をできるのか考えられるような計画になるのが良いと思います。そのために、計画本体の他に概要版として、一般の市民の方が読んで市が抱える健康課題や市全体の健康度を上げるために自分自身が取り組むべきことがわかるパンフレットのようなものを作成していただきたいと思いますと考えております。例えば、それを企業向けに健康経営のお話をする場面で活用すると、企業の方たちが健康経営に取り組んで達成されるものが、どのように本計画の基本理念につながるかということがわかります。ぜひ、一般市民の方が読んで理解し、そして自分が何をすべきかというのがわかるような形にさせていただくのが良いと思います。

それから、資料3-2施策の体系図は、世代ごとに何をすべきかわかるような形になっていると良いと思います。次世代を担う若者・子ども世代

の方、働く世代、高齢者といった世代ごとに市民が何をしたらよいのかが分かるようになっていくと、さらに良いのではないかと感じました。

先ほど委員長からお話のあった、歩きやすいまちづくりというところですが、私は札幌市の「まちづくり戦略ビジョン会議」という、健康づくり計画よりも上位の基本計画の会議に参加しております。札幌市は人口が多く比較的若い世代の多いまちですが、今後10年を考えると確実に人口減少していきますので、このまま広がり続けるまちづくりで良いのかが課題になっています。人口減少していくのならコンパクトシティにして、仕事も暮らしも全てある程度徒歩圏内で賄えるようなまちづくりに転換にしていかなければならないのでは、という議論もありました。その中では、自然と歩きたくなるよう、緑地を増やしていくような活動も必要だという話も出ています。健康を軸に置いて、より上位の計画策定においても長期的な視点で議論していくのが重要ではないかと思いました。

#### 小葉松委員長

大変貴重なアドバイスありがとうございます。小山アドバイザーの方から何か追加のご意見ありましたら、お願いします。

#### 小山アドバイザー

「歩きたくなるまち」は非常にいいキーワードだと思います。

私からは、アイデアをいくつか出させていただきます。

歩くのが難しければ、自転車を使うという方法があります。札幌では、ポロクルというレンタルサイクルの自動貸し出しポートが点在しています。そのようなものがあると、少なくとも車には乗らず、自転車を利用することで運動量が増えるかもしれません。観光客が多いということも考えると、そのようなまちづくりもよいのではと思います。

また、はこだて市民健幸大学の一つの目玉として、ハッカソンやアイデアソンを実施するのはいかがでしょうか。例えば、湯の川温泉泊まり込みハッカソンのような、若い人が集まりやすいものを実施して、このまちをどうしていくか市民と一緒に考えたり、そこに私たちが公衆衛生領域として関わったり、はこだて未来大学の先生に入らせていただくのもおもしろいのではないかと思います。

それから、五稜郭が1周1.8キロということで、皇居のようにランニングコースとしてPRするのはいかがでしょうか。有名な方が関わるなどの仕掛けをすると、自然とみんなが五稜郭周りを走って、健康になろうという機運が高まるのではないかと思います。

#### 小葉松委員長

確かに、皇居の周りにはシャワーを使える場所やレンタルロッカーがあるので、ランニングしやすい環境が整っています。五稜郭の活用は、住んでいる人間にはなかなか思いつかないアイデアでした。

委員の方から他にご意見はありますか？

無いようでしたら、オブザーバーの全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部の服部様、遠島様、ご意見・ご質問等何かご発言ありましたら、お願いします。

#### **服部氏**

我々は、他都市の健康増進計画会議には参画しておらず、函館市だけです。参加している意義をお話しします。加入している保険が国保、後期高齢、協会けんぽといった垣根を越えて、データ提供だけでなく、何か市民に対して健康づくりができないかということで、参加をさせていただいております。今後、推進施策を踏まえた上での具体的な事業展開が出てくると思っていますので、そこに関しても職域の保険者として積極的に働きかけ、地域と職域の協力・連携を深めていきたいです。ここをモデルにして、北海道全域にも広げていきたいと思っていますので、我々も責任は重大と思っています。ぜひこれからもよろしくをお願いします。

#### **4. 閉会**

---

##### **小葉松委員長**

では、これをもちまして、令和4年度第3回函館市健康増進計画策定推進委員会を終了いたします。皆様お忙しい中ご出席いただきまして、どうもありがとうございました。